

誰もが抱える悩みをパワッと解決!

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副部長
福田 貴一

最近の中学入試では、記述問題の出題が目立っています。記述問題を出題する意図は、受験生の「表現力」を試すことだけではないと考えています。「どう考え、どう判断しながらその解答をつくったか」という「思考力・判断力」もみているはずです。記述問題は各科目で出題されますが、特に多いのはやはり国語です。今回は、「国語の記述問題」の攻略法について書かせていただきます。

記述問題「攻略法」

国語の「記述問題」の答え方

記述問題にはさまざまな内容やパターンがありますが、解答するための「考え方の流れ」は大きく変わりません。記述を苦手としている生徒のほとんどは、その「考え方の流れ」を知らないままとにかく解答欄を埋めようとするため、難しく感じてしまつたのです。

私は記述問題の解き方を、5つの段階に分けて指導しています。

1. 設問の内容をつかむ
2. 解答のイメージをつくる
3. 解答に使う語句を選ぶ
4. 解答文をまとめる
5. 読み直す・見直す

段階を追って詳しく説明させていただきます。

1. 設問の内容をつかむ

記述問題だけに限りませんが、問題を解くときには「何を問われているか」を正確にとらえることが最も重要です。そのため、私は設問のなかの「何を問われているか」の部分に線を引くよう指導しています。「理由」を聞かれているのか「心情」なのか……といった点です。特に難関校の入試問題ほど、この点が重視されます。

2. 解答のイメージをつくる

長めの記述問題の場合は、まず頭のなかに「解答のイメージ」をつくります。最終的に解答がどのような文章になるのか、イメージを固めて

から書き始めるのです。この点については、記述問題をパターン化し、設問に合わせた「解答のイメージ」を定型化する、という指導法もあります。例えば、物語文で出題される「行動や表情の理由を問う記述」の場合は、「原因となる事実→心情になったから」という形式で解答をつくる、というやり方です。パターン化してしまうことで、複雑な問題には対応しづらいというデメリットもあるのですが、苦手意識を取り除ききっかけとしては有効な指導法です。

3. 解答に使う語句を選ぶ

「問われていること」をしっかりと把握し、頭のなかに解答のイメージができれば、次は解答に使う語句を選ぶ(考える)という作業に入ります。一般的に、説明文であれば本文のなから使う

べき語句を選ぶことが多いはずですが。一方で、物語文などの場合は本文だけではなく、自分の持っている(知っている)語彙のなかから使うべき言葉を考えなければならぬことも多くあります。例えば、先ほど挙げた「行動や表情の理由を問う記述」で答えるべき「心情」は、本文中にそれを表す直接的な言葉が書かれていることはほとんどありません。

ちなみに、「本文中から必要な言葉を選ぶ」というトレーニングは、「抜き書き」など記述問題以外の設問対策としても効果的です。自分で考えた解答のイメージに従い、「こういう意味の言

葉、こんなニュアンスの言葉を探そう」という明確な意図を持って本文から語句を探すわけですので、なんとなく考えるよりもより高度な思考トレーニングになります。その際に一番重要なポイントは、本文の頭から終わりまでの全体から探すのではなく、その言葉があるところを重点的に探すようにすることです。そして、そのためには文章の内容と構成がしっかりと頭に入っていることが必要です。

4. 解答文をまとめる

いよいよ、解答文をまとめる作業に移ります。ここで重要なのは、先ほどの「語句を選ぶ」過程と「解答文をまとめる」過程を、きちんと分けて行うことです。言葉を選びながら同時に文をつくっていく、という生徒もいるのですが、特に字数の多い長めの記述の場合、回りくどい文になってしまつたり、意味が通らない文になってしまつたりすることがありますので、避けた方がよいでしょう。

また、高学年になるに従い、この段階で「文を整える」という作業も必要になってきます。「主語―述語のつながりを押さえる」「修飾―被修飾の関係は近くに置く」「二段階の因果関係は、の〜から〜でまとめる」といった、「書くためのテクニック」も身につけたいところです。

5. 読み直す・見直す

小学生の場合、「自分が正しい」と思っ

た答案を見直して、そこからミスや間違いを見つけるのはなかなか難しいことです。トレーニングとしては、まず「誤字脱字のチェック」を行う習慣を身につけ、次に「主語―述語の対応チェック」、最後に客観的な視点での読み直し、というように段階を追っていくのが一般的です。ただ、このトレーニングは小学5年生の二学期以降から取り組み始めれば十分です。

さて、「読み直す・見直す」という点で、実は解答文よりも重要な、見直すべきものがあります。それは設問文です。1でも書かせていただきましたが、記述問題で最も重要なのは、問いに対して的確に答えるということです。もう一度設問文を読み直すことで、自分の書いた解答がそれに合ったものかどうかを考えるクセをつけておくのがよいでしょう。



福田 貴一 四つ葉café 公開中!

中学受験をお考えの小学3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー 教育事業本部 副部長 福田 貴一

著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』(新星出版社)。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元コードを読み込んでご確認ください

スマートフォン対応